

## ラッキーパイ引数た後も「赤字雪だるま」3000 億の損失の可能性

ハンギョレ

記事入力 2016.06.16 午前 1:15

最終的な修正 2016.06.16 午前 9:15

[ハンギョレ] **ロッテ、中国メーカーの買収の謎**

**国内の関連会社動員 600 億保証**

**シン・ドンビン背任容疑の適用可能性**

**クレジット決済するホームショッピング会社**

**2014 年の売上高の半分以上が外傷**

**粉飾会計疑惑も起き**

ロッテの中国ホームショッピングラッキーパイ買収のプロセスは、あちこちに「ミステリー」だ。最大の疑問は、事実上、資本蚕食状態であり、毎年赤字を出している不良企業をなぜ 1700 億ウォンと巨額を与え買収だったかだ。ラッキーパイはロッテに買収された後も、毎年赤字を免れなかったロッテは系列会社を動員し、600 億ウォンを支援した。

15 日<ハンギョレ>が入手したラッキーパイの財務現況と検察の説明を総合すると、2007 年に設立されたラッキーパイはロッテに買収される直前翌 2009 年までの 3 年間の累積当期純損失が 447 億ウォンに達した。ロッテが買収する前から毎年赤字を出す不良企業だったわけだ。しかし、ロッテは「成長潜在力がある」とし、この会社を 1700 億ウォンを与えて買収した。

ラッキーパイはロッテが買収した後も赤字を脱することができなかつた。ラッキーパイの 2011 年から 2014 年までの帳簿当期純損失は 355 億ウォンに達する。しかし、ラッキーパイの実赤字規模は、これよりも大きくなる可能性が高い。例えばラッキーパイの 2014 年の未売上債権は 262 億ウォンで全体の売上高（499 億ウォン）の 52.4%を占めている。売上債権は、外傷で売って回収していないお金である。結局、2014 年には全体の売上高の半分以上が「外傷」であるわけだ。したがって、2011～2014 年の損失は 500 億ウォンをふわりと越えるものと見られる。

これまでラッキーパイの売上債権が売上高に占める割合は、2011 年 2%（15 億ウォン）、2012 年 0.9%（7 億 6000 万ウォン）、2013 年に 16.23%（123 億ウォン）であった。2014 年に突然 50%に急増したものである。クレジット決済を主とするショッピングの特性上、納得しにくいという指摘が出ている。ロッテの粉飾会計疑惑が提起されている部分である。このように、ロッテがラッキーパイ引数として抱え損失が 3000 億ウォンに達するという話も出ている。

検察は、ロッテがラッキーパイを取得する過程で買収金額を膨らませる方法で裏金を造成したのではないかと調査している。ロッテが租税回フィーチャーに立てたペーパーカンパニー（ペーパー会社）を介して、この会社を買収したことに注目している。検察はまた、ラッキーパイの赤字が続いて経営が難しくなり、これを解決するために、600億ウォンを借り入れする過程（2015年第1四半期）の系列会社が支払保証を立つたのが背任に対応するかどうかを調べている。当時、シン・ドンビン会長は、中国の投資で巨額の損失を見たことが経営権紛争で不利に作用することを懸念しラッキーパイの無理な支援をしたものと見られる。

ロッテが中国投資を本格化したのは、2000年代半ば以降だ。2009年にロッテショッピングが7300億ウォンをかけて、65個マートを保有しているタイムズを買収した。2008年にグループ内の7つの系列会社が共同で投資することにした「ロッテワールド瀋陽」事業には、なんと3兆ウォンを投入することにした。このほか、ロッテ百貨店とロッテシネマの場合天津などの大都市に5つのデパートと11個の映画館を運営している。

このような積極的な投資を導いたのはシン・ドンビン、ロッテグループ会長である。新会長は、グローバル経営を提唱し、ロッテショッピングホールディングスのみ1兆ウォンを超える資金を投資した。実兄であるシンドンジュ前日本ロッテホールディングス副会長との差別化を図って、父辛格浩グループ総括会長の陰から抜け出すためのものであった。しかし、中国経済の成長が鈍化して、中国進出事業がローカライズに失敗しながら逆風を迎えた。昨年山東ロッテマート店舗9社のうち5社がドアを閉め、2013年には、中国進出5年ぶりに北京ロッテ百貨店をまとめた。金融監督院の電子公示システムをみると、2010年から今年第1四半期までにロッテショッピング中国法人が出した損失は2兆1197億ウォンに達する。ここでロッテ製菓・ロッテ七星飲料などの他の系列会社の赤字規模まで加えると、中国内の損失は3兆ウォンに達するものと見られる。また、中国進出企業が損失をみると、国内の他の系列会社が支払保証をしてくれる構造で、事実上、国内で行われ国外でか食べるという話が出たりした。

その結果、中国の投資は、シン・ドンビン会長のアキレス腱だった。型シンドンジュ元副会長は、新会長の中国投資の失敗を経営責任の核心事案で追及している。兄弟間の争いが検察の捜査のかなりの原因になったという点で、検察の捜査も、最終的に中国の投資の失敗から始まった見ることができる。検察は現在、新会長が中国の投資過程で犯した背任・横領疑惑などを捜査している。

ソヨンカチェ・ヒョンジュン記者 yj@hani.co.kr